

## 中国地方観光情報 第四弾

### 鳥取県編①



鳥取県関西本部では、鳥取に関する様々な情報発信を行っています。たとえば、「まいど！鳥取県関西本部です！」というメールマガジン。イベントや新規店舗の情報などをタイムリーに届けるなど、鳥取県をより身近に感じてもらうための取り組みのひとつです。ぜひ一度、事務所を訪ねて、鳥取の魅力を探求してみたいかがでしょうか。

### 砂丘の魅力と砂地農業

鳥取県といえば鳥取砂丘。鳥取にしかない自然美です。中国山地の花崗岩質の岩石が、風雨や日光にさらされて砂となり、川によって海へ運ばれたその砂が、海からの強い風や波で吹き上げられ、積もって出来ました。規模は東西約16km、南北約2km、最大高低差約90mにもなる日本有数の砂丘です。自然条件の変化の中で見せる様々な風紋は美しく、砂地に生きる珍しい動植物の生態も興味深い。砂丘自体が国の天然記念物に指定されているのもうなずけません。風紋は、砂丘の砂が毎秒5m前後で表面が移動しはじめ、浮き上がって少し進んでは落下し、また砂の粒を浮上させ、跳躍しては落下することで出来ます。嵐などの時に雨で濡れた砂丘の表面に強い風が吹き付けて出来る10cmほどの砂柱、乾いた砂が、砂丘の風下側の急斜面で重さを支えきれずに一気に下方へ流れ落ちてできるカーテンのような砂簾、砂の粒が堆積する際の水や風の流れの変化でバームクーヘンのような幾重もの層が出来るラミナなど神秘的な姿は芸術的でさえあります。砂丘初のロケで撮られた日活映画の「東洋武俠伝」を始めとして、山田洋次監督の「男はつらいよ 寅次郎の告白」、島崎藤村の「山陰土産」、イギリスの陶芸家バーナード・リーチの「日本絵日記」など、鳥取砂丘を取り上げた作品も数多くあります。

砂丘は砂漠と思われがちですが、鳥取砂丘を始めとする鳥取県の砂丘地では砂地農業も盛んで、長いも、トマト、メロン、らっきょう、イチゴ、葉タバコ、にんじん、ブドウなどが栽培されています。もつとも、これだけの農作物が栽培できるようになるまでには、困難の連続でした。1700年、鳥取藩農政責任者の米村所平の3期にわたる用水路整備。徳川幕府の新田



開発の命で行われた米子の豪商、船越作左衛門夫妻のクロマツ植樹による防砂策。明治10年、上山吉次が桑畑を開拓し養蚕業を興したと同時に行われた生ゴミを肥料にした砂地の土作り。大正12年、鳥取大学教授原勝の堆砂垣設置とネムノキ、ニセアカシアの混植で砂地の自力をつけるなどの努力の結果、昭和8年ようやくチューリップ、落花生、メロン栽培の成功に至りました。第2次大戦後の食糧難の時はそれまで陸軍演習地だった砂丘の開拓に国が乗り出し大々的な砂防林整備が始まりました。昭和28年にはスプリングラーが設置され、「嫁殺し」といわれた過酷な砂丘の水やり作業から解放され、保安林の生長とともに耕地は拡大してゆきました。そして現在でも、人口増加による食糧問題や砂漠化防止のテーマに、鳥取大学乾燥地研究センターで最先端の技術が開発されています。

### かにの消費量日本一

冬にだけ漁獲される松葉がに（ズワイガニ）は、今が最盛期です。鳥取県は、1人あたりのかにの消費量が日本一。境漁港でのかにの水揚げ量が日本一なのが影響しているからかもしれません。鳥取県では、おすを松葉がに、めすを親がにと呼びます。標準和名はずわいがにといい、沖合の水深200〜300mの場所に生息しているので沖合底曳網で曳き揚げます。かには、ふ化してから7〜8年かかって成長するので、乱獲防止に漁期は二月6日〜3月20日までに限定されています。境港市では1月20日に「かに感謝祭」が開催予定。水木しげる記念館前から水木しげるロードを会場にパレードやかにの奉納が行われ、かにの食べ方講座が実施されます。

境港は、漁業の町でもありますが、「ゲゲゲの鬼太郎」で町おこしに成功した町でもあります。水木しげる氏の出身地にちなんだ、妖怪をテーマにした観光で全国の注目を集めました。JR境線の境港駅前から約800mにわたって水木しげるロードがつけられ、ブロンズ像の妖怪が153体が並んでいます。また、同線の13の駅には妖怪の愛称をつけ、妖怪をペインティングした妖怪列車も走っています。アニメのキャラクターを活用しただけと思いがちですが、埋もれていた財産である「妖怪」に着目した発想と水木氏の協力、市民の変化への期待と実行が成功を引き寄せたのでしょうか。



鳥取には10の温泉があります。河原の露天風呂が有名な三朝温泉は世界屈指のラジウム泉、湖底から湧く東郷湖畔の東郷と羽合温泉、山間部の吉岡、鹿野、関金温泉、鳥取市街地の鳥取温泉、頭に手ぬぐいをのせ、手ひしゃくの湯をかぶる「湯かむり」の風習が残る岩井温泉、民謡「貝がら節」のふるさとで湯量豊富な浜村温泉、美保湾に湧く山陰最大級の皆生温泉です。

冬のイベントとしては、智頭町で2月2日に開催される「智頭宿の雪まつり」、雪質のいい5つのスキー場でのウインタースポーツがオススメです。3月には鳥取自動車道も全面開通し、ますます「早くて近い」鳥取県になりますのでぜひお越しください。

※砂の美術館が1月6日で今期が終了し、来期は4月20日から「東南アジア」をテーマに開催します。

※智頭宿は参勤交代で栄えた宿場町で、雪まつりは今年14回目、幻想的な雪灯籠などがみどころです

鳥取県関西本部

大阪市北区梅田1の1の3大阪駅前第3ビル22階

電話06・6341・3955

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞